武雄市議会だより 栄八通信

第44号

1 4 7 10 月末発行

武雄市議会議員
宮本栄八
TEL・FAX 23－0750
携帯 090－5083－0793

H23年の議員活動

私は、今年は、明るい年になるような気がする。それが、丑や寅年ではなく、ウサギで、あちらこちらで、ピョンピョンはねる春の野原を思い浮かべるからだろうか。

昨年後半にこだわっていた、武雄小学校の体育館の配置が奥まった崖に作る計画について、もし、武雄保育所が移転するなど、前提条件が変れば、見直しも可能との教育委員会からの答弁があった事や、武雄中のテニスコート4面化に向けて、重箱堤の所有者の小楠区との話し合いをするとの答弁があり、今後に展望が開けたからかもしればい。一方、新市になって本格的に学校や市営住宅改築が計画され、一応基本計画が出され、それを待って意見を言う方針でいたが、旧武雄市の時より変えにくい事が判ったので、今後は、基本設計の発注前の考え方というかコンセプトを問い、市民ニーズがより取り入れられる様にしたい。

一方、今年は、何と言っても、昨年から整備中の工業団地の企業誘致の成果が求められる。

また、昨年より、実証実験中のみんなのバス・1pad教育を、国県の緊急雇用対策の金でなく、通常の予算で拡大し、しかも、みんなのバスについては、運送業者との住み分けも整備しなければならない。また、TPPに日本が参加して、農業対策が出された場合、以前のウルグアイランドでの農業補助の使い方は、あまり農家自体の助けにならなかった経験から今度は実利のあるものへ。

兎に角、左に示した、短期・長期課題を基本に市民の声を活かし、活動したい。

短期課題
1．新工業団地企業誘致
2．TPP対策の市内農業方針
3．みんなのバスの制度確立
4．北方町の都市計画決定
5．戸別浄化槽による水洗化

長期課題
1．下水道料金統一
2．杵東地区し尿処理場の建設問題
3．工業用水道の活用
4．固定資産税の引き下げ分で給食費無料化
5．渕の尾浄水場24億円の建替中止

12月議会が11月30日に開会された理由

12月定例会が、11月30日にあった。主な理由は、人事院勧告の議員・職員のボーナス削減を実施する為には、12月以前に条例を改正しないといけない。以前は、臨時議会等で対応していた。

一方、議員については、12月のボーナスが約5万円削減された。

一般職員については、給料・ボーナスについて、4月に遡って、月給が平均1千円減り、それがボーナスにひびき、結果、9万4千円削減された。全職員分で約3、400万円と言う。

しかし、市民の方からは、民間に比較すれば、恵まれていると思われるのかもしれない。

一方、今全国的に、議員の報酬を含め、地方での官民格差の是正は大きな政治課題にもなっている。

また、通常議会の採決は、最終日だが、この関係議案は、開会日に議決された。

全国学力テスト 学校別公表の賛否は？

今議会、市長は、小6と中3で行われた、全国学力テストについて、文部省や県の教育委員会が学校間の競争激化の懸念から、具体的な各学校の成績の発表をしてない事を、閉鎖的体質として、市内小中学校の点数を公表された。

市長の政治家としての信念から報公開と言って公表するのは反則、とのことで、私も政治主導の考えをもつので、その面では理解するが、何故それを、教育長の頭ごなしに発表するかが解からない！。

今後はテスト前に公表・非公表を明確にして実施を願う。公表が教育効果があるとの主張であるなら、その点数をどう役立てるのかの政策も示さないといけないと思う。

また、一般的に公表しないことを前提に、テストをして、後で情報を公開と言って公表するのは反則、国語A（基礎）が公表された。

中学校	国語
武　雄	70.3
武雄北	66.7
川　登	69.3
北　方	72.4
山　内	70.2
小学校	国語
武　雄	80.6
御船が丘	81.4
朝　日	80.4
橘	82.0
若　木	77.3
武　内	81.0
東川登	85.9
西川登	81.0
北　方	81.4
山内東	86.8
山内西	84.8

どうなる？ 武雄市新物産 レモングラスから ドリアン 一個 12万円へ

今議会、また新たな武雄市の特産物作りの提案が市長からあった。

これまでの、レモングラスは、あまり儲からない。と前置きし、新たに、特産品化するのは、果物のドリアンと言う。市長の説明によれば、冬瓜と似ているのか、冬瓜は1個150円だが、ドリアンは、東京のデパートでは1個12万円で、すぐ売れ、また箱入りは14万円との話。

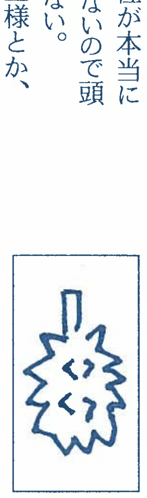
ただ、このような話は、レモングラスの時も、数10円程度の苗が、東京では、ティー1杯1500円で高収益との事であり、若者の新規営農者の拡大になるとの話だった。

だから、提案を一般質問のやり取りで聞いた時、私は、そんなに簡単に儲かるのかと疑問に思った。しかし今、ドリアンに可能性が本当にあるのか、私自身知識がないので頭から特産品化に否定はしない。

テレビでは、フルーツの王様とか、独特のにおいがあり、好き嫌いがはっきりしているとか聞くが、一回も食べたことはない。

私は、レモングラス予算には、これまで反対した事はない。市長は発言の中で反対した様な表現をされたが、私が当初から言っているのは、事業であるなら、大まかな、収支計画書が必要である事。特産品化するなら、一部の人でなく、多くの農家で作付けできるようにする事を言っていただけ。

一方、市は現在、タイから輸入した苗は、全部を約20万円で売ってしまって1本もない。一方、市は昨年、白岩競技場付近の街路にレモングラスを観賞用に植えたが、その分は20万円で購入したと変な話。



ドリアン

新武雄工業団地完成が4月から10月に遅れる理由

北方町に、実効面積、約20haで造成中で、遠くから山の地肌が見えて来た、新武雄工業団地だが、完成が4月から、10月に遅れるとの報告があった。

理由は、昨年夏の日照りで土が固まらず、工事が遅れたとの説明。

ただ、土木業者の話では雨で遅れる事はあるが、晴れて遅れた話は聞いた事がないとも。

とに角、10月に遅れるが、入る企業誘致も進んでいないので、当面問題はない。ただ、今議会でも、私は、一般質問の第一番目に企業誘致について質問し、市の誘致活動への取り組みを問うた。

今の県の東京・大阪事務所の活動に、まかせた形でなく、自ら市も東京・大阪以外にも営業すべき事と、新幹線課と兼任になっていて、しかも2～3人。

30億もかけて整備し、5年以上たてば、金利を、分譲価格に上乗せになり、さらに他の工業団地との競争に不利になる。

一方、現在県からの照会の状況をたずねると、副市長の答では、ほとんど引き合いの照会はないとの話。市長は、議員や市民からの紹介をお願いするとの事だが、土地が広大で、そう素人が紹介できるものではない。

私は、H23年度の市の最大の仕事は、企業誘致であり、色々小さな新聞ネタの様な事業より、市長のH18年からの公約である、企業・学校の誘致の実現を！

武雄市未来年表

年	月	事項
H23	4月	競輪「共同通信杯」 戸別浄化槽市内拡大
	6月	新武雄病院移転
	8月	武雄小管理棟(内部)改修
	8月	山内中特別教室(外部)改修
	10月	新武雄工業団地完成
	11月	和田住宅1号棟着工
H24	3月	武雄中教室棟完成
	8月	武雄小管理棟改造
	8月	山内中特別教室(内部)改修
	10月	和田住宅1号棟完成 和田住宅2号棟着工
H25	3月	下水道浄化センター完成
	4月	後期高齢者制度廃止
	10月	武雄中・武雄小 体育館設計？ 和田住宅2号棟完成
H26	4月	山内中教室棟改築 市長・議員選挙 （議員定数削減化？）

※この年表は、独自製作で正式発表ではありません。

広域ゴミ処理問題をポイントだけ解説！　その1

前号、杵藤地区や伊万里市・有田町で整備予定の、新ゴミ処理場建設が昨年、焼却方式の問題でストップした所まで伝えたと思います。

それは、灰をセメント工場に、お金を出して引き取って、もらう【セメント原料化システム】が学識経験者や各市町の課長などで作る、検討部会の評価8項目中の7項目は、◎になって1位となっていた。ただ、この8項目には、もし、セメント会社が、引取りを、中止した時のリスクなどの評価項目はなく、私は、この評価の「ものさし」自体が、信頼性がないなど、決定するには問題があると思ったし、武雄・伊万里市の議員からも疑問が出されていた。

一方、管理者の伊万里市の塚部市長は、昨年時間をかけて、再検討するとの話しだったが、動きはなく、12月以降、武雄市から、企業立地課理事の伊藤氏を、組合事務局長に派遣。また、施設建設委員会の会長に、武雄市の副市長前田氏が就任するなど、武雄シフトになっている。

これからの動きとしては、2月25日に組合議会が開催されるので、それまでに、評価の再検証の方法などをまとめ、組合議会の承認などを待って、3月以降、具体的に進められると思う。

そこで、セメント原料化方式でなければ、、どんな方式があるか？というと、【スラグ化システム】と言って、灰をさらに溶融し、スラグという無害の石状にし、道路等の材料にする。ただ、このスラグも利用にも波があるとの意見もあるが、私は、灰引き取り中止よりはリスクは少ないと考えるので、私は当初よりスラグ方式を支持している。

一方、最近、セメント原料化を指向している所も多いのも事実だ。

私が、業者などの話を自分なりに解くと、どうも、セメント会社が、積極的なわけでなく、機種選定にシャフト炉（たて型炉）などの（焼却と溶融）一体型の焼却炉方式が選定されると、製造業者が少なく、多くの焼却炉メーカーが入札に参加できない。価格の大半を占める焼却炉部分で共同戦線を組んで、溶融の伴わない、セメント原料化を進めれば、逆にスラグを伴う機種は選定対象外になる。私は入札参加資格をめぐる、業者やコンサルタントをまきこんだ、機種選定やその前の方式選定の理論合戦と、最近判断した。

先に述べた様に最近、セメント原料化を選択している所が多いのは、業者やコンサルの理論もあるが、主な要因は、各自治体に処理場建設の用地がなく、灰を外部に頼るしかない台所事情がある為。

幸い、今回の西部の桃川には用地が十分にある為に、自由な選択ができる。嬉しい悲鳴でもある。

現在の流れでは、スラグ化システムに向うと思う。それは、今、誰一人として個人名を出して、セメント化を組合地区内で主張している人がいない事から。

そうなれば、A焼却＋灰溶融といって、出た灰を電気炉で溶かす型とB焼却炉直接溶融一体型があり、AB両方入札参加が望ましい。

新年名刺交換会ボイコット騒動とは？

12月議会の一般質問において、市長は、2人の議員の質問に答える形で、H23年の武雄商工会議所主催の「新年名刺交換会」に、自身も参加しないが、市職員にも参加させないと、重ねて発言された。その理由は、昨年11月に会頭交替があり、原隆司氏が会頭に就任した事が理由と言う。

具体的な内容は、原氏が、行政問題審議会の会長の時に、会議中に、市長をヒットラー呼ばわりし、また、その後の審議会を開催しなかったからと言う。

この答弁が、忘年会の話題となり、「市長が出んとはよかけど、職員を出さんと言うのはおかしか」とか、「来んない、来んでよか」とか、結構市民に広がっていた。

そんな事が、市長に伝わったのか、議会の終盤、ボイコットから、参加・協力の発言訂正がされた。

しかし、一般質問の方はテレビで見た人も多く、数日後の訂正は知る人が少なく、1月4日当日、私に市民から、どうなったかの電話での問い合わせも入る状況だったが、結果、例年通りの盛況。

一方、市長の言う、原会長のヒットラー発言の時、私は、会議の傍聴に行っていた。H19年12月市民病院の改革や移転の論議などが進められていた。しかし、市長が、一部の医療関係者と、すでに接触し話を進めているとの情報が入り、審議会で話し合っている事を、裏ですでに決める事は、民主的ではなく、ヒットラーの独裁と同じだとの発言であった。

また、審議会を会長として開催されなかったのは、会がまず「医療の専門家と話し合いを」との提言を無視したためで、原氏に非のある所もなく逆に感心すらする。

学童クラブ、7時までの延長問題の二つの考え方。

現在、放課後児童クラブは、市内各小学校区にあり、1年生～3年生、約490人が利用をしている。

今議会の一般質問で、特に熱弁がふるわれていたのが、この児童クラブの利用時間の1時間延長問題で、市は、利用者保護者の要望から、午後6時までを、午後7時までに延長する検討を始め、これを機会に利用者アンケートを実施した結果、約50％が希望している事が判ったとのこと。

質問した、山口（裕）・上野議員の主張は、共に、親が子供の近くにいる時間を作る努力をすべきで、安易な利用はいけない。現在でも、本当に仕事で6時まで預けているのか疑問の親もいるとの指摘で、7時までの延長は、更にそれに拍車をかけるとの主張。

このやり取りから、延長話しが親の仕事の状況など、厳格審査による安易な利用防止話になり、市は来年度、募集の児童クラブ利用者の保護者の就業証明書の提出を求めて、本当に必要な人のみの利用にして行くと言う。

私は、保護者の利用拡大の提案が、逆に利用制限に向ったことに驚いた。

私は、他人が、親子の時間を作らなければと、押し付けることはないと思うし、仕事が5時45分に終り、15分で駆け付けなくても、夕飯の買物ぐらい済まして来ても良いし、その1時間の延長サービスは、住民の役に立つ案とも思う。

一方、元々、私が10年以上も前に井手豊議員と提案した頃は、近所に友達がいない低学年が集まる、まさしく児童クラブで保育ではなかったと思う。

100%　めざせ子宮頸がんワクチン無料接種

国の半額補助が予算化されたため、武雄市も、H23年1月より、子宮頸ガンのワクチン接種が始められた。対象は、市内中学1年～高校1年女子だが、高1だけとなっているのは、11歳～15歳の年齢を基準にしてある為。

3回がワンセットで、4万8千円かかるが、無料。ただ、国は緊急経済対策で、H22・23年分の予算のみ確定。その後の補助金は政権不安定の中、先行きは不透明。

市は、45％程度は接種されると予測している。しかし、私、市議とすれば、国の補助金のある内にほぼ100％接種していただきたい。

昨年、県のインフルエンザが補助金を接種者が予定より少なくて返納し、今年度は市単独費で補助するなどちぐはぐになった反省から、ぜひ該当者の方に協力を願う。

市営和田住宅　平屋から5階建ての不思議

新市になって初めて、市営住宅建て替えとなる、武雄町花島区（青陵中近く）の和田住宅の基本設計ができたとの事で内容を聞いた。

私が一番驚いた事は、現在ほぼ平屋78戸が、5階建て2棟に建て替えることであった。

私は、その地区が、二種住宅専用地域で、市が低層住宅を推進している地域であり、また旧武雄市では、近年建替えた、栗原住宅や下山住宅は、2～3階のコミュニティー重視の作りになって来ていたので、今回もそうなるだろうと思い込んでいたので、びっくりした。

もう、実施設計に入っているので、変更はできないので仕方ないが、今後予定の山内町大野住宅や北方町の高野・小原住宅の時には、設計発注前に高層か低層かなどのコンセプトを話し合いが必要。

国保の県一本化の行方

現在、国保は、市で運営しているが、合併時約1億2千万円の基金から、H21年決算では、7千4百万円の赤字となっている。

各自治体ともに苦しい状況だが最近、県内の国保を一本化して県に運営をしてもらう案が出て来た。

目的は、スケールメリットと助け合いの安定化と言う。

私は、大型病院などが増え、当然、利用者拡大により、さらに国保が赤字になる可能性も考えられ県で一本化する事には賛成です。

ただ、当面は、民主党が後期高齢者保険制度を、H25年に、再度国保に拡大して戻す為、その部分について、先行して、県内統一を急ぐ模様。ただ、これから国保税の統一や、未納者にも保険適用させる、短期保険証発行などの各自治体の違いの統一も必要に。

武雄市議会とTPP

12月定例会の開会が、定刻の10時に開会できなかったのには、私が、この「環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加への慎重な対応を求める意見書(案)」の提出者になることを断ったため、意見書の提出者の署名欄の作り替え等に時間がかかったためです。

議会運営委員会では、全議員の署名で提出となっていたと言うが私は、1人会派で議運に出れないので、知らなかった為の出来事。

国への議会からの意見書は、「可決」と「全会一致可決」の表現で、示されるので、一人の反対があるか、ないかの差は大きい。

私は、TPPに全面的に拒否するまでの知識はない。ただ、交渉参加に「慎重」である必要はなく、決断力の不足する今の菅首相に対しては、逆に積極的に交渉を進めむしろ、韓国の様なEPA(国別交渉)が良いか早期の決断が必要。